

ノーサイド

北原 巖 男

突然ですが、全国の自衛隊員の皆さんの中には、高校等を卒業後、防衛省・自衛隊入隊のためふるさとを離れたまま今日に至っている方も多いのではないのでしょうか。入隊以来、全国の駐屯地や基地、職場を異動しながら頭張りを続けて幾年月。「ふるさとを出て、もう何年かなあ。」何かの拍子に、そんな思いがよ

きることもあるのではないのでしょうか。かけがえのない皆さん自身のふるさと。最近こんなことがありました。かつて、カンムリワシの異名をとった石垣島出身、沖縄初の元WBA世界ライトフライ級世界チャンピオン具志堅用高さん（世界タイトル13度連続防衛）と那覇市出身でガレッジセールのコリスさんとのトークショー「沖縄の本土復帰50周年を語る」。お二人の抜群に呼吸が合ったふるさとと沖縄に対する熱いキヤッチボール・笑い満載・具志堅さんの名言「人生は、簡単にダウンするなよ！」も。トークショーの中で、具志堅さんは、石垣島には中学を卒業する15歳まで、高校時代は那覇市として高校卒業と共に上京した旨、コ

リスさんは、10代のときに東京に出て来た旨語っていましたが、お二人が縦横無尽に話されるふるさと自慢に時間の経過を忘れてしまいました。そんな沖縄にまた行きたいとの思いを強くした1時間でした。お二人と同じように東京暮らしが圧倒的に長くなっ

ふるさとのはなしをしよう

ている僕ですが、彼らのようにふるさとを語ることが出来るのでしょうか。否。出て引張り出しました。厚さ7cmもある箱入りの「上の自然や生活・歴史・伝説の自然や生活・歴史・伝説・文化・風俗・料理・方言などを、どれだけ分かっていないか。ほとんど知らないではないか。今になって、めんどめられたセピア色のページには、知らないことや驚きがいっぱい。頻発

のような気持ちも抱きながら会場を後にしました。隊員の皆さん、本紙読者の皆さんは、いかがでしょうか。帰宅後、毎週金曜日の午後には東京・神田の古書店を30年以上続けている長老の方から、「自分のふるさとを知ることが大切だ

した災害。飢饉による餓死者のなんと多いこと。江戸時代、ふるさと高遠藩では土地の肥沃度等によって各村を上々村・上村・中村・下村・下々村に等位分けして石高を決めていたんだ。僕の村は、下々村か。谷あいの村のため、太陽が半日しか当たらず「平日集落」を今も実感するふるさと。よくぞ今日まで生き残って来たものだ、愛おしくなります。「きみの知らないほくのふるさとふるさとの はなしをしよ」 きみが生まれた きみのふるさと はなしをしよ (歌手 北原謙二) ふるさとの はなしをしよう (歌手 北原謙二) 協会会長。(公社) 隊友 会理事

「異動して 実家遠のき 妻笑顔」(令和4年度防衛省版サラッと一句！わたしの川柳コンクール 1月31日にリニューアル公開された防衛省HPより。トップページのデザイン・検索機能・掲載内容等が工夫され、使い勝手の良いHPとなつていきます。アクセスしてみてください。)

北原 巖男(きたはらい わお) 元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。(公社) 隊友 会理事